

# 政治のホンマを 伝えるチラシ

# レオナンドス通信



[www.nakanishireo.com/](http://www.nakanishireo.com/)

2025年 冬号 発行：中西レオ応援団

19時）ことに加え、その期間だけ入所する児童も多く（今年度の夏で834人、うち4割が高学年）、過密化によるストレスや事故が心配です。

写真の長机（180cm×60cm）を8名で区切つて使うクラブもあり、プライベートスペースの狭さに驚きます。

今後は施設の拡張、入所者数の抑制新たな受け皿への誘導等を並行して進める必要があります。

国基準の概ね1クラス40人以下、一人あたり面積1.65m<sup>2</sup>をなんとか

共働き家庭の増加にともない、全国で学童保育の利用者が増えています。明石市でも年々増加しており、今年度当初は4,533人です。

## 他の選択肢をつくろう

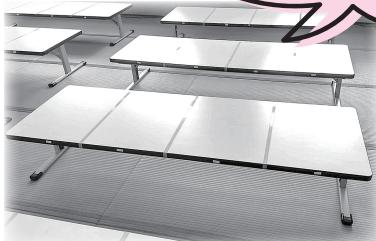
明石市は児童館がなく、民間の学童保育は非常に少ないので、放課後の行き先が公設の学堂保育に偏りがち。西宮市や尼崎市が行っている学校の施設を利用した放課後の自由な居場所（職員の見守り有り）を参考にして新しい選択肢を作る必要があります。

昇給も2回のみ。人材確保のために  
はキャリアに応じた昇給のほか、勤務者  
の子の保育所優先入所といった特典等、  
あらゆる手を尽くすべきです。他市ではスキマバイトでシフト  
を埋めるケースもありますが、明石  
で導入すべきではありません。

施設を拡大しようとしても、配置する支援員（職員）が足りなければできません。支援員には保育士資格や教員免許等の資格や児童福祉事業での実務経験等が必要です。（補助支援員は資格不問）しかし、有資格者は他の自治体や保育、教育の現場でも不足していく競争が激しい。待遇面はフルタイムでも平日の勤務時間が短いこともあつて十分と言えず、

支援員不足

# どうする? 学童保育



保護者が働いている小学生を対象に、遊び場や生活の場を提供する学童保育（放課後児童クラブ）は自治体によってサービス内容が異なります。共働き率の増加や夏の猛暑など社会が変わる中で明石市の「放課後のあり方」を考える必要があります。

